

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第1回再生普及推進のための連携チーム会合議事要旨

日時:平成27年7月24日(金) 13:00~14:30

場所:釧路地方合同庁舎4階 第三会議室

【出席者(敬称略・順不同)】

<個人>

- ・新庄 久志 再生普及小委員会 副委員長

<関係行政機関>

- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 治水専門官 大田 義博
- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 自然環境整備課課長補佐 畠中 寿明
- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 整備計画専門官 藤重 邦隆
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 網倉和弘
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 立野 正信
- ・北海道釧路総合振興局釧路建設管理部事業室治水課 主査(河川) 森下 剛志
- ・北海道釧路総合振興局釧路建設管理部事業室事業課 主査(河川) 熊谷 猛賢
- ・北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課 課長 安田 直樹

<再生普及行動計画オフィス>

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国立公園課 杉本 頼優
釧路湿原自然保護官事務所 渡邊 雄児
- ・公益財団法人北海道環境財団 久保田 学、安田 智子

事務局 7月10日の再生普及小委員会での決定を受けて第1回の会合を本日開催する。この場は議決する場ではなく、情報を持ち寄って共有し、小委員会提案することが趣旨。

議事1 座長の選出

事務局 事務局から新庄委員を推薦し、了承を得た。チーム会合は年2回を想定し、それ以外に事務局のみで集まることも想定する。この場自体はメディア等には非公開とするが、ここでの提案等は全て小委で公開される。

(以下、新庄座長の司会により進行)

新庄座長 説明があったようにこの場は情報を共有し、小委への提案を作っていく場である。メディア非公開だが事務局で記録等は残す。議論は小委に出して公開で議論したい

議事2 再生普及推進のための連携チームの当面の進め方について

事務局 再生普及小委の議論に基づく修正点を中心に資料2-1,2-2,2-3の主旨を説明した。

議事3 再生普及推進のための効果的な情報発信について

事務局 資料3を元に案を説明。「生態系サービス」は一般にはわかりにくく、所内でも「湿原の恵み」という説明が提案されている。現時点では予算の制約から当初1,000部程度を想定しているが、版を作成し、必要とする役所が必要な部数つくことも考えられる。

新庄座長 これまでに再生事業を紹介するパンフは作ってきた。それぞれ英訳して海外向けにも対応してきた。しかし、再生事業を必要とする湿原の価値を発信できてこなかった。本日は事務局から説明した作成趣旨について、及び、作成における協力について相談したい。少し内容が多すぎないか。冒頭が中心では？

事務局 湿地の価値だけではなく、自然再生の状況を説明するツールにしたい。たたきは全体構想見直し時に情報はいただいている。見学会等で説明に使えるものにできるとよい。

藤重専門官 <2-2>で実施計画後との地図とあるが流域全体でどこでなにが行われているのかを示す地図が必要。

安田課長 見学会や説明会はこれでよいが一般の方々に伝えるには少々ボリュームが多い。地域づくり小委でイオンさん等にも声がけを予定しているが、A3二つ折り1枚もののダイジェスト版等があれば、店舗に置いていただけるとは思わないかと思う。

新庄座長 ダイジェスト版は本編とは別のものとする必要がある。

畠中補佐 イメージとしてはリーフレット。

太田専門官 現場に来てくれる人には事業説明が必要だが、一般の人に湿原の価値を伝えるにはその方がよい。

網倉所長 役所はどちらかというと読み手の立場からではなく伝えたいことを羅列してしまう。読み手が端的にわかるように、おもしろくわかりやすい、いいたいことがパッとわかるような簡便なものがあるとよい。

新庄座長 団扇の表裏に書いてあるくらいのイメージか。もっと知りたい人向けにはより詳しい説明が用意されていればよい。

事務局 予算の問題はあるが、一般向けパンフを先につくことも考えられる。

新庄座長 材料については全体構想のときにある程度集めているのか？

畠中補佐 全体構想見直し時に写真等は集めているが、1年たって進捗しているので、各小委からの情報提供をお願いしたい。

議事 4 環境教育の取り組み及び自然再生への参加機会づくりについて

各小委員会事務局から資料 4 に基づき概要を説明。

< 湿原再生小委 >

太田専門官 幌呂は地盤切り下げだけなので地味だが、ヨシの移植体験を交えて伝える場。昨年までは地元からの参加は多くなかった。長期滞在の方の参加が数人ある。すでに募集を始めており、今年で 4 回目になるが好評なので続けていきたい。

畠中補佐 達古武のヒシ除去による再生を知っていただく目的で実施。再生事業に継続的に関わる若い人たちを取り込みたいと考えている。募集は 7/21 から実施しており、本日チラシを配付している。現時点で 24 人の定員に対して 7 名の問い合わせ。今年はネムロコウホウネやヒツジグサ等在来の水草の再生を実感してもらえるようにしたい。

新庄座長 ヨガはなぜ？

畠中補佐 1 日取り組むとかなりハードなので中に入れていく。

< 旧川復元小委 >

太田専門官 インターンシップ、は工学系の学生を夏休み期間に各地方ごとに 2 週間受け入れる仕組み。今年は釧路の河川部門の受け入れは 1 人を予定している。現場を見る機会は少ない。公共施設見学ツアーは、普段入れない施設を案内する民官主催ツアーで、今年お祭りと絡めて木道を歩いてもらう。「復元河川の環境」は KIWC のモニタリングをお手伝いする。「現地見学会」は毎年実施しているが、昨年ボートで下ったら好評だった。上流の五十石橋下の直線川道から復元河川のカヌーポートまで下り、変化がよくわかる。

< 森林再生小委 >

網倉所長 会員制の仕組みで、新聞に出したら 25 名の定員がすぐ埋まった。自然再生だけではなく、山菜採り等の楽しみ要素を盛り込んでいる。雷別で植林し、達古武に移動。

畠中補佐 オートキャンプ場の宿泊者向けに自然再生の説明と人工林・自然林の解説をする。「調査体験会」はまなぼっこの小学生向けの講座で、昆虫と川の水生生物、ドングリ等の観察をっており、今年は川の生物の観察を行う。3 つめは冬の講座で、再生地の沢でわき水を観察し、湿原の水の供給源を知ってもらう。また、森林再生の現場でエゾシカのこと等を伝える。毎年好評で定員がうまる。

< 水循環小委 >

太田専門官 毎年小委開催に前後して講演を行っており、今年も実施する予定。

< 土砂流入小委 >

森下主査 久著呂川の対策の見学会で 4 年目になる。今年は底生動物や魚類を観察してみる予定。募集を開始しており、定員 12 名。

<普及小委>

事務局 教員研修で7月30日に南標茶の沈砂池と茅沼の旧川復元現場に教員を案内し、意見交換する。そのほか、ワンダグリンダの活動をとおして機会を普及する。

<複合>

事務局 上智大学のゼミ18名を受け入れる。留学生が多い。

畠中補佐 追加して達古武の森林再生の現場も案内する。

新庄座長 たくさんの参加機会づくりの予定がある。各小委が予定するが普及小としては？

事務局 メールニュースで特集してHPとともに配信し、博物館等ではより大きくプリントして掲示する。楽しみ要素や婚活、土砂流入での参加特典など、さまざまに工夫いただいている。是非小委間で参考にして盛り上げていきたい。また、この5年間でこうした場を市民のモニタリングへの参加の場として定着させていきたい。

新庄座長 メールニュースは記者クラブに投げ込みするのか？

事務局 投げ込みはしていないが、個別に記者に配信している。

太田専門官・畠中補佐 担当分は直接投げ込んでいる。

事務局 市民参加イベントで去年は共通アンケートを実施したが今年も協力を要請したい。後ほどご相談いただきたい。協議会全体での状況把握をしたく、共通様式または共通項目での実施についてご協力をお願いしたい。

議事5 自然再生につながる地域の取組みについて

事務局 資料4に基づき概要を説明。鶴居森林組合では、林道断面を屋根型とすることで土砂流出を防ぐ施策をしている。標茶高校では水質浄化実験を自然再生事業と連携して実施している。

新庄座長 自然再生につながる取組みを小さなものでも紹介していきたい、という趣旨である。サンクチュアリのタンチョウの自然採餌環境整備などもあるのでは。

事務局 ワンダグリンダに参加いただいている。

議事6 基金の活用について

事務局 資料6-1に基づき説明。

引き続き資料6-2に基づき道釧路建設管理部、林野庁釧路湿原森林ふれあいセンター、国交省釧路開発建設部より提案趣旨を説明した。

事務局 寄付者の意向を汲むことが普及小委では出ている。

新庄座長 協議会に提案し、採択されたら執行し、お金が貯まったらまた執行する。という方針でよろしいか。何分にも管理にコストをかけられない。

安田課長 寄付された方々の思いを受けることは要る。

事務局 寄付者からは白紙で委ねられており、特段の用途は言われていない。

新庄座長 ものの購入等と学生への奨学金等、どちらがいいだろうか？

森下主査 後者の方が未来につながる。(熊谷・畠中・立野)

太田専門官 その方が説明責任にも叶う。

安田課長 募集すると毎年行うことになるが、安定的な財源がない中で続けられるか。

新庄座長 80万円の予算の中で協議会に提案する手はある。制度として運営するのは難しいだろう。

畠中補佐 10周年なので記念事業でスッパリつかう手もある。

議事7 その他

事務局より今後のスケジュール見通しを説明。

新庄座長 本日のご助言を踏まえ、事務局で検討してほしい。

閉会